

令和4年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

山形県立米沢興譲館高等学校

スクール・ミッション	「『興譲』の精神」（自他の生命を尊重する精神、己を磨き、誠を尽くす精神、世のために尽くす精神）のもと、高い志を持って、積極的に地域や世界の他者と協働しながら、果敢に挑戦し新しい価値の創造に向け貢献していく、次代のリーダーとなる人材を育成します。
目指す生徒像	『いのちを尊び、新たな価値創造の志を持ち挑戦する生徒』 1 自他の生命を尊重し、調和のとれた人間性豊かな生徒 2 謙虚に学ぶ姿勢を身につけ、高い志を持ってその実現に向けて努力する生徒 3 次代のリーダーとして、自立し、世のために尽くそうとする生徒
重点目標	1 自立に向けた生徒指導の展開 2 学力の向上 3 探究型学習の推進 4 進路指導体制の充実・強化 5 学習環境の整備と健康・安全教育の推進 6 魅力ある開かれた学校づくり 7 校務の情報化の推進 8 健康管理、働き方の改善と教職員倫理の醸成

【評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった】

番号	自己評価		達成度	次年度に向けた改善策	学校関係者評価 意見・要望・評価等	
	評価項目	具体的方法と指標・基準				
1	自立に向けた生徒指導の展開	・自他の生命の尊重と違いを認める態度の育成 ・「果敢に挑戦する」態度の育成に向けた学習指導、部活動、学校行事、生徒自治会活動の推進 ・探究型学習の成果等に基づく地域貢献の醸成 ・自己効力測定尺度を生かした自己理解の醸成、タイムマネジメント力を高める指導の充実	○いじめ防止アンケート（年3回）やスクールサイン（7月～9月）を通して、学年と連携しながら掌握と対応に当たり、全ての案件で経過を見守っている。 ○コロナ禍において、生徒自治会が主体となって、最善の対策を講じて、体育祭・合唱コンクール・興譲祭の実施、高鍋高校との交流等が実施できたことは大変良かった。 △生徒の交通ルール違反が見られ地域の方々からの心配が多く寄せられた。今年度は4件の交通事故が発生している。	A	・いじめ防止については更にきめ細やかに取り組んでいく。 ・SNSの適切な利用について、今後とも指導を継続していく。 ・生徒の発想を取り入れながら、新たな行事の在り方を検討する。 ・日常的な自治会活動がどうあるかべきか検討を深めていく。 ・生活習慣の確立に向けた指導を継続し、タイムマネジメントができるよう根気強く声掛けを行う。 ・生徒自治会活動として、次年度からのポロシャツの導入を進める。 ・重大事故を発生させないために、交通安全ルールの徹底と規範意識の醸成に努める。	・「自己効力」は「楽しい学校」から、「楽しい学校」は「先生」自身が楽しいということから。 ・今年度、制定した「スクール・ポリシー」に込めたメッセージを、生徒・保護者・地域に浸透させて欲しい。 ・スクールポリシーが校歌そのもので、興譲らしいといえる。 ・スクール・ポリシーやシラバスは”契約書”であり、掲げた内容の果たすことが大切である。
2	学力の向上	・「興譲館3DOC」を目標に据えた「自己効力」を高める指導と評価の実践 ・「考える力」の向上と主体的に学ぶ姿勢の育成 ・教科指導力の向上、一人一台タブレット端末の活用による研修の充実 ・普通科、探究科のねらいを踏まえた教育課程の実践と教科指導力の向上 ・新教育課程の実践と不断の検証	○授業研究の実施し、参観と事後研究により3DOCを意識した教科指導の推進が図られた。 ○自己効力の評価法について外部講師を招聘し、研修会を実施した。 ○一人一台タブレット端末を活用した研究授業の実施や活用事例の研修会を実施した。 ○新教育課程のスタートに合わせて、現1年生からの評価方法の見直しを行い、教員の指導法の改善を図った。 △生徒アンケートにおいて、タイムマネジメントができていない生徒が7割台に留まっている。	A	・教員の指導力向上のための各種研修会の実施 ・一人一台タブレット端末を活用した授業実践の拡大 ・新たな観点別評価に基づく指導と評価の充実 ・時間割の適切な設定による授業時数のバランスの確保	
3	探究型学習の推進	・ESDエキスパート制による探究活動の推進 ・SSH第IV期の実践と地域の高等教育機関や企業、地域と連携した教育の一層の推進 ・国際教育の研究とユネスコスクール・キャンディデートの実践	○SSH第IV期がスタートした。（SSH通信を年間15号発行） ○各種イベントを、Classroomや掲示板を活用して生徒へ案内し、積極的な参加を促した。 ○1年生対象に「デザイン思考ワーク」を東北芸術工科大学との連携により実施し、探究型学習の良いスタートを切る事ができた。 ○海外との高校間交流を昨年度から継続し、今年度はコロラドとの交流も行った。海外研修の代替研修としても効果的な研修を実施できた。 ○サイエンスキャッスル東北大会を本校開催し成果を得た。 ○2学年国際探究科で模擬国連を推進し、全国教育模範国連大会にて初志者賞優秀賞を受賞した。また、全国高校模範国連大会に参加し、予選を突破し本選進出を果たした。 ○ユネスコスクールキャンディデート校としての活動、実践が増えている。 ○新規に地元の小中学生対象に「米沢興譲館探究フェスティバル」を開催し、科学の楽しさやSDGsの大切さを伝える良い機会となった。	A	・各種イベントに積極的な生徒の参加を促すために、各学年探究課を中心に声をかけを行う。 ・CSSCやESS以外の生徒が各種外部活動に参加できるよう部活動等との調整を丁寧に行う。 ・国際探究科や普通科文系において、探究活動の実績を入試で活用し合格を勝ち取る生徒が出てきた。今後、探究活動を充実させ、進路実現につなげていく。 ・SSH校とユネスコスクールキャンディデート校を2つの軸として、本校の探究活動の体系を整理する。 ・新型コロナウイルス感染拡大により実施できなかった2学年探究科海外研修を、次年度実施の方向で検討を行う。	・地域の中での役割期待を伝え、高校生の”地域性”を育てて欲しい。四季のまつり等、地域の盛り上がり高校生と分かち合いたい。 ・若い世代の選挙投票率が低い。学校での主権者教育が民主主義に資するように工夫をして欲しい。卒業後住民票を移すようにという指導もあるのではないかと。 ・今日の厳しい社会状況に照らしながら、卒業後の生活設計をイメージさせることも重要である。 ・教員が探究活動の指導をする上で、生徒の要求に応えられるバックボーンを作るために、教員の研修を充実させて欲しい。
4	進路指導体制の充実・強化	・個に応じた進路希望の実現に向けた組織的支援体制の充実 ・キャリア教育実践プログラムに基づく高い志を育む指導と系統的な進路指導の推進 ・大学入試に関する積極的な情報収集と学校推薦型選抜、総合型選抜の指導の充実 ・「生徒未来創造会議」、 「生徒情報共有会議」による全職員共通理解と一人ひとりの能力を引き出し育む指導の推進	○友代会は、2学年は7月から、1学年は12月から開始し、KITは、1・2学年とも5月から開始し、適宜集会等を行い意欲を喚起できた。 ○入試研究会、分析会の案内を周知し、積極的な参加を呼び掛けた。また、新課程入試に向けての情報収集を行った。 ○学校推薦型・総合型選抜では小論文・面接について全職員体制による指導ができた。 ○FS、SSR等の取り組みを基に志望理由書を作成する生徒もおり、探究的な学びがキャリアにつながっている。 △現1年生の大学入学共通テストにおける教科「情報」について、早期に指導計画を示す必要がある。	A	・3学年の模擬試験を重ねることに志望者が減少傾向にあるため、志望者を減らさないよう手立てを考えていく。 ・友代会の講習時間帯について、働き方改革との関係からも今後検討を行う。 ・現1学年の新教育課程入試の対応（教科「情報」の導入など）について検討が必要である。 ・学校推薦型・総合型選抜において、共通テストや科目試験を課すところが増えている。合格に向けての学力向上も意識する必要がある。 ・学校推薦型・総合型選抜のメリット、デメリットを出席申請の前段階で十分周知し、生徒自身の意思確認を丁寧に行っていく。	
5	学習環境の整備と健康・安全教育の推進	・検診や健康調査、教育相談を活用した健康安全管理能力の育成 ・教育相談体制及び支援を要する生徒理解に係る組織体制の充実 ・危機管理体制の整備と施設設備の安全点検の推進 ・校舎内外の清掃の徹底と美化活動の推進	○火災と地震の避難訓練を実施し、スムーズに避難を行うことができた。 ○新型コロナウイルスの感染状況に応じた速やかな対応ができた。 ○CO2モニターを活用しながら換気の徹底を図った。 ○長期休業前に受診勧告書を再度配付することで、受診完了して新年度を迎えた。 ○体育祭や興譲祭での熱中症・コロナ予防の呼びかけを通して、全校生対象に「いのちの講話」を実施する。 ○配慮を要する生徒の情報を職員間で早期に共有し、チームとして対応に当たる。 ○教育相談、適応支援の推進する。スクールカウンセリング予定表を全校生徒に配付し、保護者への周知を図る。 ○「カウンセリング通信」の配付及び特別支援に係る情報発信を行う。 ・清掃・校内外の美化活動の推進する。清掃強化週間（年3回）を設定、美化委員会による清掃点検を実施する。 ・生徒の端末が繋がりにくいことを踏まえ、通信回線の整備を行う。	A	・ミサイル発射時等、様々な場面での避難についても検討する。 ・新型コロナウイルス感染症に対する規制の緩和と感染予防の両立の検討。 ・新型コロナウイルス感染症に関わり、不登校、不適応の生徒達への対応の仕方、協力体制等を考えていく必要がある。 ・「清掃」に対する意識を高める指導が必要がある。	・withコロナの中で、心身ともに「強く」「くじけぬ」生徒を育てる。 ・コロナ禍の厳しい3年間の学校の努力が見られる。コロナ禍で行事が制限される中で、生徒が充実感を得られるような工夫が行われてきたことがわかる。 ・コロナに係る欠席が出席停止扱いとなったことが、学校を休むことのハードルを下げたことは、様々な学校・校種で見られる。 ・このような社会の風潮の中で、登校できない生徒を作らない、強い生徒を育てることが必要である。
6	魅力ある開かれた学校	・スクール・ミッションを踏まえた3つのスクール・ポリシーの策定と周知 ・各種評価および学校評議員会の効果的な実施 ・保護者、地域自治体、地域住民との協働による社会に関わった教育課程の推進 ・学校だより、学校ホームページ、フェイスブック等広報活動の充実 ・説明責任に基づく事務処理	○創立記念式において、本校同窓生による福島原発の廃炉作業の現状に係る講演会を実施し、生徒の見識を広げる良い機会になった。 ○「興譲館だより」を各学期1回発行し、幅広く生徒の活躍を紹介できた。 ○保護者向け進路説明会を実施し、情報提供と啓発活動を行うことにより、進路意識の向上を図った。 △学校ホームページの更新が遅れ、古い情報が掲載されている部分が見られ、改善が必要である。	A	・記念講演会における本校同窓生の人材活用を今後も継続する。 ・ホームページの掲載内容を精査し、適切な情報提供を行う。 ・「さくら連絡網」を効果的に活用した情報発信を行う。 ・生徒・保護者向けの情報提供のあり方を検討する。 ・次年度は、コロナウイルス感染防止により実施を見合わせてきた保護者、学校評価委員による授業参観の実施を行う。	
7	報7化の校務推進	・県統合校務支援システムと校内グループウェアの効果的活用 ・県統合校務支援システムを用いた業務改善と操作マニュアルの不断の見直し ・「さくら連絡網」の有効活用による出欠管理、生徒・保護者との情報共有の推進	○さくら連絡網の活用により、朝の欠席連絡の電話対応が大きく減少した。また、保護者への緊急連絡等にも効果的であった。 △紙媒体の会議資料が多く、ペーパーレスを踏まえた電子データの活用推進が必要である。	B	・次年度も、「さくら連絡網」を継続する。 ・校務用タブレット端末を活用した業務改善を検討する。	・保護者アンケートの回収率が低い現状も含めて、保護者等に学校評価アンケート結果を適切にフィードバックすることが必要。その上で、アンケートをもとに改善を図って欲しい。
8	成教働8職き健方健倫理の管理の善理と	・定期健康診断結果を踏まえた健康管理の徹底 ・円滑な業務遂行に向けた教職員間の改善策の共有と実践 ・働かざる者食うべからざるの改善 ・働かざる者食うべからざるの改善 ・校内倫理委員会をとおしたコンプライアンス遵守と教職員倫理の醸成	△経年比で、月80時間を超える教員は減少しているものの、多い月で80時間を超える教員が3割に達する現状がある。 △部活動方針の遵守と各部活動計画の見直しが必要である。	B	・「働き方改革プラン」の目標である複数月平均超過勤務80時間未満を達成できるよう、教職員一人ひとりのマネジメント力を高める必要がある。	

自己評価、及び学校関係者評価に基づく改善点や検討事項等、他	1 学力の向上、探究型学習の推進 2 観点別評価をとおした個々の生徒の資質・能力を伸ばす指導と評価の充実 3 SSH第IV期計画の推進と地域との協働・普及及び、ユネスコスクール・キャンディデート事業と国際教育の推進 4 理数教育、国際教育を軸としたキャリア教育推進計画の見直しと整理 5 進路指導体制の充実・強化 6 大学入試制度の変更に関する情報収集と指導体制の構築（大学入学共通テストへの教科「情報」の導入など） 7 校務の情報化の更なる推進 8 校務用タブレット端末を活用した業務改善 9 情報環境の整備と見直し
-------------------------------	---